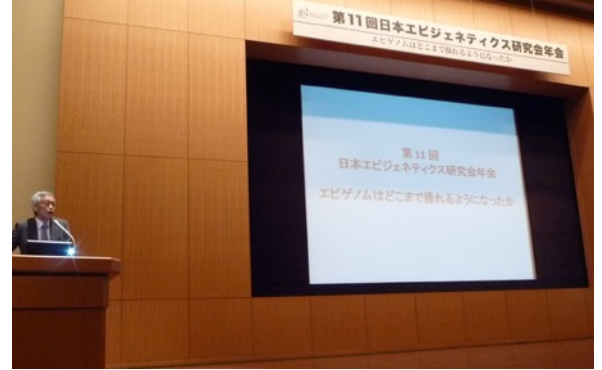




第11回年会「エピジェネティクスはどこまで操れるようになったか」開催

第11回日本エピジェネティクス研究会年会在、5月22日～23日の2日間、学術総合センター、一橋講堂で開催されました。本会は3つの新学術領域研究と理研シンポジウムの共催として、また1つの公益財団法人、33社の企業に協賛して頂き、348名の方に参加していただきました。理化学研究所の小倉淳郎先生による特別講演に加えて、一般講演13題、ポスター103題、ショートトーク10題、さらに、奨励賞受賞者2名による講演、次回年会長である村上洋太先生の講演が行われました。



本会はこれまでのエピジェネティクス研究を振り返り、現在エピジェネティックな情報をいかに私たちが操れるようになってきたのか、というテーマの下に企画されました。講演では活発な質疑応答があり、またポスター会場でも盛んに議論が行われ、エピジェネティクスを操るという年会のテーマが、この分野の時流に乗ったものであることを印象づけました。講演者の皆様、参加者の皆様、また、年会の運営をしていただいた組織委員会、眞貝研の皆様、大変ありがとうございました。

奨励賞受賞者の表彰が行われました

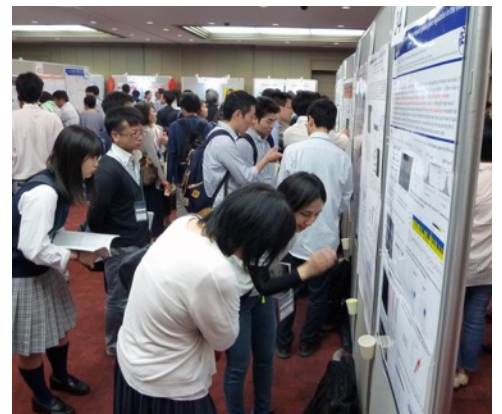
本会の賞等選考委員会による厳正な審査の結果、若手研究者の中から名古屋市立大学の勝島啓佑先生（左）、理化学研究所のSharif Jafar先生（右）の2名が選ばれ、受賞者講演の前に眞貝洋一代表幹事による表彰が行われました。

おめでとうございます！



幹事会と総会が開かれました

- ▶5月22日に幹事会が、また5月23日に総会が行われました。
- ▶2018年の年会は、村上洋太幹事（北大）を年会長として、5月24、25日に北海道立道民活動センターで開催される予定です。詳細が決まりましたらまたお知らせいたします。
- ▶2019年の年会長には、古関明彦幹事（理化学研究所）が選出されました。



ポスター会場の様子



第11回年会を開催して

第11回日本エピジェネティクス研究会年会長、代表幹事

眞貝 洋一

(理化学研究所 眞貝細胞記憶研究室)

多くの方にご参加いただき、第11回年会は盛会のうちに無事終了致しました。今回は、「エピゲノムはどこまで操れるようになったか」をテーマに、皆様でこのトピックスの現状を共有し、将来に関して議論したいと考えておりました。そのような機会になったのであれば、企画として大成功であったと思います。これからの10年、この現状がどれくらい変わっていくのか、期待を込めて見守って行きたいと思います。加えて、このトピックス以外にもエピジェネティクスに関する、あるいはその概念を包含する様々な研究の話もありました。改めて、エピジェネティクスの裾野の広さに感心するとともに、日本のエピジェネティクス研究がさらに発展することを願っております。

最後に、ご参加いただいた皆様、今回の年会運営にご尽力いただきたい皆様、および協賛いただいた企業・財団等の皆様に感謝いたします。来年5月に、札幌でまた皆様にお会いできることを楽しみにしております。



会場入口



講演会場の様子

情報を求めています！！

研究員・ポストドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしくお願いたします。お近くの広報委員に気軽にe-mailください。

(代表) 中島欽一 (kin1@scb.med.kyushu-u.ac.jp)
梅澤明弘 (omezawa@1985.jukuin.keio.ac.jp)
古関明彦 (koseki@rcai.riken.jp)
胡桃坂仁志 (kurumizaka@waseda.jp)
中山潤一 (jnakayam@nibb.ac.jp)

日本エピジェネティクス研究会事務局

佐賀大学医学部 分子生命科学講座
分子遺伝学・エピジェネティクス分野内
庶務担当幹事：副島英伸
担当：八木ひとみ

住所：〒849-8501 佐賀県佐賀市鍋島5-1-1
TEL: 0952-34-2262
E-mail: jse-jimukyoku@ml.cc.sags-u.ac.jp